

# ふくろう新聞

## 第661回評議員会並びに 第661回理事会を開催

3月28日13時から、ふくろうの郷にて第41回評議員会並びに第66回理事会が開催されました。

理事長専決事項等の報告、平成26年度補正予算の提案のあと、平成27年度の予算の提案、準職員就業規則の改定、育児休業規定の改定について審議されました。

はじめに、中川原地域で起きた痛ましい事件を受けて、大矢理事長から「何故防げなかったのか、受け止められなかったのかをふくろうの郷、ふれあいセンター全ての事業所を通して考え続けたい。」との報告がされました。

また、介護報酬引き下げの影響により平成27年度予算は、収支差額が▲1500万円と、法人設立以来初の赤字予算となりましたが、国の推進する社会福祉の在り方に声をあげまた、この財政状況を胆に銘じ次に改定されるまで理事をはじめ、職員、労働組合、入居者家族会など皆で知恵を絞って乗り越えていくことを意識するため承認されました。

<発行>  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会  
洲本市中川原町中川原28番地1  
TEL:0799-25-8550  
FAX:0799-25-8551  
ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/hyoutoku/>

## 新任職員研修 講義と実技研修を経て



▲新任職員たち 理事長・主任たちと共に  
皆さんのがんばりに期待です

4月1日、新任職員を対象とした研修では大矢理事長から辞令交付があり、新任職員への期待のあいさつは主に「楽しく生きる、自由に生きる、平和に生きる、そのための暮らしの創造を考えましょう」と呼びかけるものでした。

いよいよ新年度の始動です。しかし150万円(月々125万円)もの巨額の赤字を年度内に何とかしなければなりません。2月と3月に要介護2の方と入居契約しました。80歳と82歳のふくろう者です。介護報酬が少ないからと、ふくろう者を排除しての収入増はありません。

講義のあとは、実技研修で車イスや移乗の介護事故を想定した実技、入居者の方との懇談ではそれぞれの人生の語り深くふれました。



巻き寿司作りを頑張る川西さん



## 花木ユニットに迎え

### 川西 和夫様

平成27年2月2日に、川西和夫様を花木ユニットに迎えしました。川西さんにふくろうの郷でのご希望をたずねると「尼崎に帰りたい。たつのこ作業所に戻りたい。仲間と働きたい。」「だから歩けるようになりたい。訓練したい」と強くおっしゃいます。

ふくろうの郷の入居日とたつのこ作業所の一泊旅行がぶつかったのですが、「この旅行には絶対に行く」と作業所の仲間に車いすを押ししてもらい、旅行を楽しまれたといえます。

自治会長の黒崎時安さんが「大阪市立ろう学校で一緒。70年ぶりだ」と、川西さんも「黒…だったな！」と握手されました。作業所以前は(株)文化自動車工業で長く、その前は(株)小浜資源等に働きついで、86歳の今も「早く働けるようになりたい」と手話をされます。

(生活支援員 石川)

# 新しい役員を選ぶ家族の会

平成27年3月28日に第14回淡路ふくろうの郷家族の会を開催しました。6家族8名のご参加をいただきました。

経営状況の報告では、4月からの介護保険の改定について説明しました。介護報酬が減額され、施設の経営が苦しくなること、利用者負担についても補足給付の基準が変更されれば、負担が重くなることを説明し、改定による影響の大きさの深刻さと危機感を共有しました。

生活援助、暮らしづくりの報告では、今年度の特徴として17名の入居者とお別れとなり例年に比べるとかなりの増加で、開所から9年が経過し、開所当初から入居されている方のお別れが多くなってきました。ご家族の顔ぶれも年々変わってきています。

ご家族様からのお話で、大東様は「義母がお世話になっています。ふくろうに入って笑顔が多くなり、本当にうれしく思います。もし、お手伝いできることがあれば、したいので言ってください。」、長塚様からは、「妹が



▲第9回ふくろうふれ愛まつりでは、土居文子さん(99)へ白寿のお祝いをお渡しました。

先日まで入院をしていました。ふくろうに帰ってきて、表情が違いました。丁寧に世話をしてくれているのだと思います。」など嬉しい言葉をいただきました。会の終了後には、皆さんでふくろう特製のお弁当を食べ、歓談しました。職員も同席させていただき、入居までの人生・暮らしぶりを聞かせていただくことができ、ご家族同士、ご家族と職員との関係が深まったひとときでした。

(竹原哲章)

## 平成27年度役員紹介

会 長	廣地タマエ様
副 会 長	長塚 寿子様
会 計	今川 清史様
会 計 監 査	吉田 誠様
幹 事	小林 泉様
幹 事	大東都志子様

## 言語聴覚士をめざす 実習生感想

関西総合リハビリテーション専門学校の言語聴覚士を目指す学生たち。一週間の実習を振り返っての感想をご紹介します。

### その人自身を見て、個性を尊重

今回、ふくろうの郷で実習をさせていただきました。皆さんの経験ができ、学ぶことができました。

なにより学んだことは「障害があることを特別視しない、特別扱いしない」ということでした。ふくろうの郷には多様な障害をもつ人、稀な疾患を持つ人、様々な人が入居されていますが、障害があるから、特別な疾患があるからといって特別扱いをすることはありませんでした。このことは、障害や疾患だけを見るのではなく、その人自身のすべてをみる、ということだと思います。

だからこそ、その人本来の人柄に接することができ、その人の個性や意思を尊重できているのだと感じました。このような経験は、一般の病院では得られないものだったと思います。この経験を忘れずに、障害や疾患を持つ人

に対し、障害や疾患だけではなく、その人のすべてを見て、その人自身に寄り添える言語聴覚士になりたいと思います。(阪井聡美さん)

### 入居者様との話で勉強を

限られた時間でしたが、ふくろうの郷で実習できて本当に良かったと思います。職員さんや入居者様などたくさんの方とお話できて、楽しく勉強することができました。5日間本当にありがとうございました。(谷川由佳さん)

### 学びを生かして言語聴覚士に

5日間ありがとうございました。皆さん優しい方ばかりで関わらせて頂くのが楽しみです。これからも笑顔で元気に過ごして下さい。ふくろうの郷で学んだことを活かして立派な言語聴覚士になります!(原里緒奈さん)



## 新たな入居者(1月～3月) 要介護2のろう者も2人

4月からの介護保険制度改定で特養は要介護3以上に重点化されました。病院退院の受け皿とか、看取りの役割だけのことさらに強調されています。しかし「生活の場」としての特養の役割を見失ってはなりません。

特に、障害特性・生活と人生を考慮しない介護認定によって、実態よりも軽く認定されている高齢ろう者を締め出さないふくろうの郷でありたいです。介護報酬の減額により150万円の赤字予算で経営は極めて深刻ですが踏ん張っています。

ふくろうの郷の最近の入居状況をまとめました。

表のろう者の入居者はいづれも居住地でくらしたいとの願いを持たれています。ふくろうの郷で受け入れつつも、居住地での施設づくりの必要が大きくなってきています。

入居日	介護度	ろう者	健聴者	入所前の居住地
1月13日	4		女性80歳	洲本市
2月2日	4	男性86歳		尼崎市
2月10日	3	男性80歳		神戸市
2月10日	4		女性89歳	洲本市
2月10日	4		男性91歳	洲本市
2月16日	2	男性80歳		西宮市
2月17日	4		男性90歳	洲本市
3月26日	2	女性82歳		西脇市

## ふくろう 大学修了式

平成27年3月31日にふくろう大学修了式を行いました。

書道・料理・絵手紙・健康・手芸・自分史回想などの講座で励まれた1年をたたえての修了式です。ふくろうの郷では50人の高齢ろう者の内、義務教育を修了できなかった方が35人、7割も占めています。日本語はもちろん手話も学べないまま高齢まで放置され、意思を伝えるご苦労は想像を越えます。その学びへの意欲に込めつつ、いつか文部科学省・教育委員会による修学の場合に繋がりたい、そんな願いを込めて講座が続いています。絵手紙・書道等のボランティア講師にも感謝しつつの修了式でした。4月から新たに講座が始まります。

入居者の北風さんは、毎回講座に参加され、毎日ふくろう工房での作業も頑張られています。修了証と写真、お給料を受け取られ、早速お部屋に飾られていました。「また来年度もふくろう大学に積極的に参加し、毎日の作業に励みます。」と意気込んでいました。

みなさん、来年度も元気にふくろう大学やふくろう工房に参加して下さいね。  
(生活担当：田中)



▶ 修了証、写真、お給料を受け取る北風様





**淡路聴覚障害者  
センター  
センター便り**

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

**県内で初めて南あわじ市役所に  
テレビ電話と磁気ループ**

南あわじ市は市制10周年を迎え新庁舎が建設されました。これを機に福祉課窓口にて聴覚障害者向けテレビ電話と補聴器で雑音をカットするカウンター型磁気ループが設置されました。県内の公的



▲窓口でテレビ電話利用の様子・新聞社の取材を受ける齊藤よし子さんと市職員（左奥）

機関では初めての設置というところもあり、3月27日の設置作業日には、南あわじ市居住のろう者数人が訪れました。設置完了後、淡路聴覚障害者センターと繋げ市職員、ろう者がセンターの手話通訳をうけながら会話を試みました。テレビ電話を利用した齊藤さんは「今まで役所に来ても筆談では通じにくかった。テレビ電話を利用してセンター職員と手話で会話でき安心。自分の家にもテレビ電話を設置したい。そして市役所やセンターと繋げ手話で相談できるようなってほしい。これをきっかけに市の職員や市民の方々も是非手話を覚えてほしい。」と話されました。



▲市民課と福祉課の2カ所に設置されたカウンター型磁気ループ

**いつでもどこでも手話が使え  
る環境を  
市職員・市民にも手話が  
広がることを期待**

また、難聴者向けには「カウンター型磁気ループ」が福祉課と市民課の窓口2カ所に設置されました。補聴器に雑音が入らず、説明が聞きやすくなります。今後も福祉の窓口が行きやすいものにしたものです。(吉川)

**引き続き手話サークル  
での学習を…**

手話奉仕員養成講座受講者と  
手話サークル交流会 2/26



▲交流を楽しむ受講者・手話サークル会員・ろう者

講座も終わりに近づいた2月下旬、手話サークルの活動を知っていただこうと島内3サークル(あわじ・三原・津名)と交流会を行いました。初めて会うろうの方もおられ、養成講座で学んだ手話で自己紹介やゲームなど楽しみました。4月からはサークルで活動されることを期待しています。

**「1年間の感想」を手話で発表  
手話奉仕員養成講座修了式**



3月19日手話奉仕員養成講座の長期コースの修了式が行われ、受講者が学んだ手話を使って1年間の感想を発表しました。写真は山野さん

**受講生の感想**

ろう者宅にヘルパーに行っていた。体調を聞くこともできず、悩んでいた頃講習会を知り、参加。今では手話が少し通じるようになった。今では手話で話をしてもらえるようになったのが一番嬉しい。  
・手話の技術以外に講演会やサークル活動を通じ、世界が大きく広がった。もっと勉強を続けたい。

**平成27年度聴覚障害者センター  
重点目標**

- 中途失聴難聴者を対象に「聞こえ」の保障の充実を進める。
- いつでも、どこでも相談でき、集える体制作りとして3市での拠点づくりに努める
- 手話言語条例制定をみすえ、ろう者自らが問題、課題を発信することを援助し、ろう者問題に対する理解を広げていくための教材づくりをすすめる。

**「こころのケア相談」は  
毎月第1土曜日開催**

お仕事をお持ちの方のために、土曜日に開催することになりました。相談を希望される方はセンターまでご連絡ください。



▲稲 淳子氏 (精神保健福祉士・社会福祉士)

3年ぶりにこころのケア相談を担当することになりました。同障者として手話で気兼ねなく話せます。どうぞお気軽にご相談ください。

### 中川原高齢者・障がい者地域

### ふれあいセンター



〒656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

## おのころの家・おのころ屋

### 農業日誌⑨

#### たまねぎの準備

4月になり新たな仲間たちも加わりおのころの家農業班の活動開始です。  
土の状態が悪い中で植えた玉ねぎも少しずつですが成長してくれています。  
先月、病気になるまいように予定されていた消毒薬を散布しました。

消毒作業を行う際、玉ねぎを傷つけないようにホースをもつなど、初めての作業にもかかわらずもちも収穫までの大変さを実感されました。

他にも畑の空いていた畝にジャガイモを植えたのでこちらの収穫も楽しみます。  
また、気温が暖かくなってきたので畑に草がはえはじめ、なかまたちで除草作業も行っています。

初めて参加される方から「(土で)汚れてしまうけど、



▶仲間たちが除草作業を行いました  
いつもとちがう作業もたまにはええな」と、いう感想も聞くことができました。

約30アールの畑を地域からお借りして農作業を昨年からは行っています。職員は昨年からは中島と今年3月から藤崎とで作業支援しております。毎日、なかまと玉ねぎ・馬鈴薯など野菜栽培を始めています。

今後は無農薬栽培・有機農法を勉強・研究していきたいと思っております。皆さんからの技術指導をよろしく願っています。

(おのころの家・藤崎・中島)

## デイサービスセンター「桜ヶ丘」

寒い寒い、早く来い来い春！  
と思っていた、3月、デイサービスから見える庭には、紅白の梅がきれいに咲き、春を少しずつ感じ始めていました。

そして、3月末次第に桜のつぼみが膨らみはじめ、4月に入り、満開に咲きました。  
デイサービスのお送えから戻り、ふれあいセンターに到着するや否や「わあ、きれいなあ」「ここで十分お花見できるなあ」とご利用者さん。曜日によって、洲本市内や市外へお花見ドライブに出かけた

## 満開の桜に手作り桜餅



り、桜を眺めながらご利用者さん手作りの桜餅を食したりと、皆さん初めて迎えたデイサービスでの春を楽しんで下さっています。  
(デイサービス・竹内)

3月9日、念願の8人乗りを頂きました。中川原に移転して、送迎が必要な人が増えたのと、新しく仲間が増えたのと、今あるだけでは、無理でした。

新しく8人乗りが増えたことで、送迎もスムーズになりました。  
利用者さん達も新しい車に乗れるかどうかと送迎の時間になると気になるようです。交通規則を守って、安全に運転したいです。

(おのころの家・藤本)

## 日本財団より福祉車両を頂く 「ホンダ・ステップワゴン車」



### 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター事業内容

「地域とともに歩み、高齢者・障がい者・子どもにとって優しく、生き甲斐と安心が感じられる、活力とふれあいに満ちた地域社会の実現を」を理念に下記の事業を行なっています。

全体として、昨年度の「おのころの家」「淡路聴覚障害者相談支援事業所」の移転、「デイサービスセンター桜ヶ丘」の新規開設により当初予定していた全ての事業を開始することができました。それぞれ独立した事業ではありますが、横のつながり、また地域住民とのつながりをより一層強め、このセンターが「地域福祉のモデルケース」となるよう活動を進めていきます。

- |                              |                                |                          |
|------------------------------|--------------------------------|--------------------------|
| ① おたがいさま中川原事業(中川原町連合町内会共同事業) | TEL 0799-28-0990               | FAX 0799-28-0992         |
| ② ふれあい広場桜ヶ丘(中川原町連合町内会共同事業)   | TEL 0799-28-0990               | FAX 0799-28-0992         |
| ③ 居宅介護支援事業所「桜ヶ丘」             | TEL 0799-28-0991               | FAX 0799-28-0992 (担当:濱田) |
| ④ 淡路聴覚障害者相談支援事業所             | TEL 090-6208-0942              | (担当:瀬田)                  |
| ⑤ デイサービスセンター桜ヶ丘              | TEL 0799-28-0993               | FAX 0799-28-0992 (担当:竹内) |
| ⑥ おのころの家・おのころ屋(就労継続支援B型事業)   | TEL& FAX 0799-28-0995 (おのころの家) | (担当:橋詰)                  |
|                              | TEL& FAX 0799-22-6133 (おのころ屋)  | (担当:山田)                  |

# 続々・地域を語る

## 中川原むかし話

### かるた 口説き

No.9

# 北 岡 肇

## ◁ 車ごと落ちた馬をまつる

### 馬頭観音

淡路ふくろうの郷の玄関から西の山々を眺めますと、中程にかすかにお寺さんが見えます。鳳来山・松栄寺です。お寺さんから北西の方へ行きますと、つづら折になった急な坂道があります。山を越えると向うは鮎原から都志へと行く道で、昔は細いながらも大切な洲本の城下町からの街道でした。

町人達は歩いて山を越えて行き来していましたが世の中が進むにつれ馬車に乗って越えるようになりまし。その時代のお話です。

馬頭観音をお祝いしているところは洲本市中川原町市原地内で、昔は道ばたにありましたが昭和58年3月から始まった淡路縦貫道の建設によつて県道の改修が行われ旧

道として残っています。地区の方は「奥山観音」と言っています。場所を教えてくださいてもなかなか見つかりにくく、こんもりとした森の中に祀られています。

中川原村史からの記述によりますと、「民百姓は、農耕運搬など馬にゆだねる場合が多く、馬頭観音を路肩に祀り馬の安全成育を祈った。そして農家では馬はほとんど家族の一員としてあつかわれ、死馬に対して供養塔を建てたり、馬頭観音をお祀りしたものである。」

碑の正面には馬頭観音像を刻み側面に年号と世話人名を記してあるが殆んど読めない。

また、地元の古老の話によりますと「正確な時代は不明ですが、大正の初め頃、馬に荷車を引かせる馬車が洲本へ鮎原間を行き来するようになり、鮎原から坂を登り、洲本への下り道を1のカーブ、2のカーブ、最後のカーブにさしかかった時、馬車の勢いが強く、カーブを曲がり切れずに深い谷底に転落し馬が死亡した。地元の人達は死亡した馬にいたく同情して、馬頭観音を祀り今も供養を続けている」というお話が伝承されています。

- ・大祭日 1月18日 7月18日
- ・小祭日 4月18日 10月18日

## 市原青空会新規会員募集中

### 中川原町の方で

#### 野菜作りに興味のある方!

内容・野菜納入をふくろうの郷など老人ホームへ週2回、大型スーパー店へ木・土曜 八時〜十二時。2名ずつの当番制。休祭日に臨時出店する場合あり。詳しくは、**国田保彦**まで  
0799-2810654 連絡お願いします。



かわいいダルマです★  
西田梅子様 (80歳)

## 3月20日 手芸講座 作品介绍

## いつもご支援ありがとうございます



4月1日(水)地域交流会の皆さんが今年も鯉のぼりの棒を立ててくださいました。土台も換えて頂きありがとうございました。

